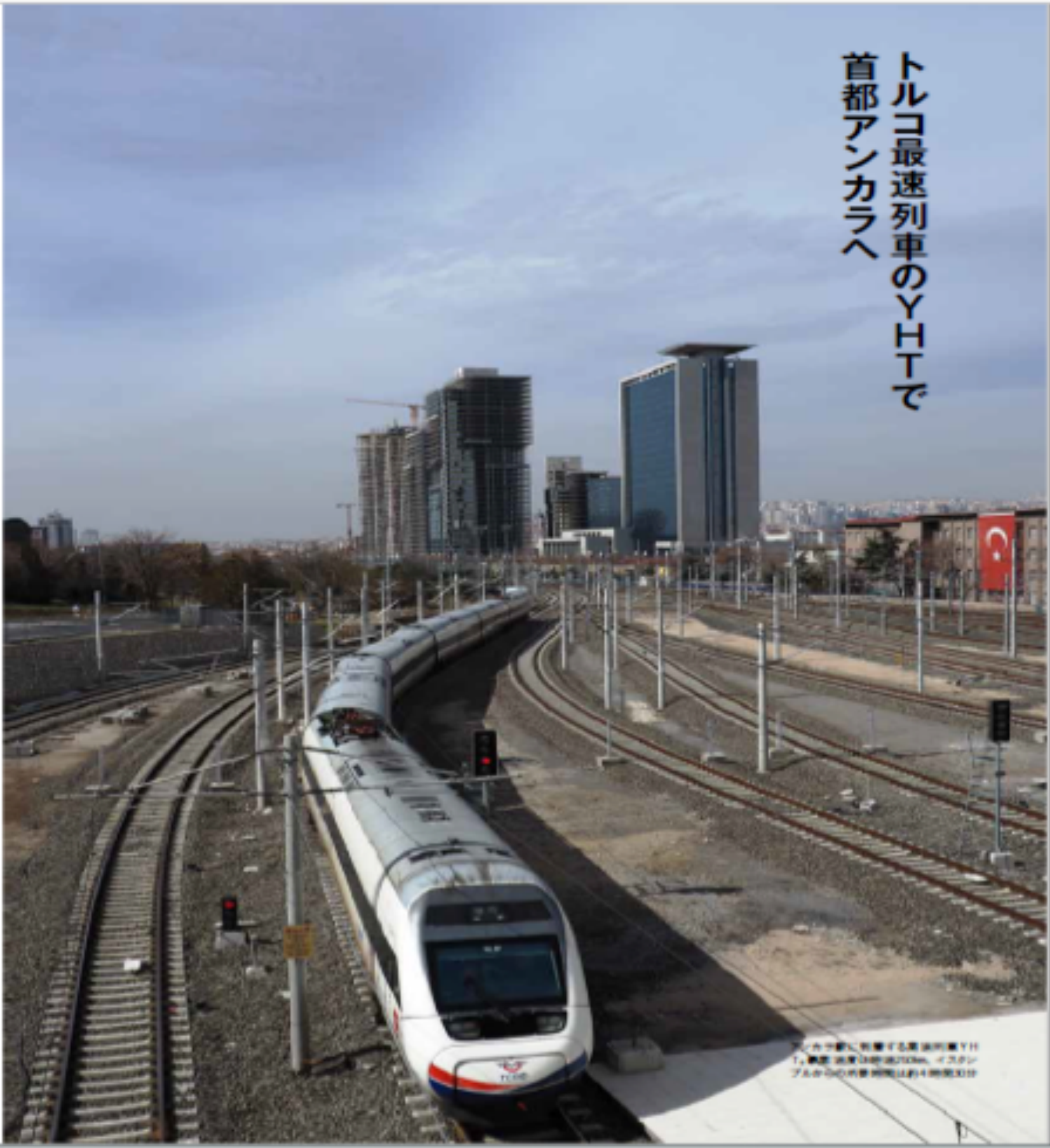
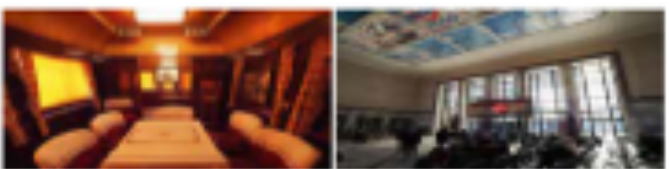


トルコ最速列車のYHTで 首都アンカラへ



アンカラ駅に到着する最速列車YHT。最速 営業時速は350km、イスタンブールから首都アンカラは約4時間30分



上/トルコ憲法が制定したアンカラ中央議院。1974年開議の歴史を誇り、ドーナツ・エムスプレッションが特徴的。下左/美しい天井が印象的なアンカラ中央議院の会堂。下右/アンカラ中央議院に展示されているアタテュルクの近代大統領の専用列車の内部



上/YHTが停車するアンカラ駅。左側は東口、右側は西口に設置する。下/YHTの案内表示。ダイヤ0453、コール045379



上/アンカラの中心に立つアタテュルク文化センター。トルコ憲法の父として知られるアタテュルクの近代大統領が創設。下/アタテュルクの墓より眺めたアンカラ城。城壁は17世紀にオスマンの建築に築かれたバザールを囲むことによって築かれた

ア ガサー・クリスティが、「オリエント急行の殺人」を上梓したとは35年ぶりの殺人小説。急行はパリ〜イスタンブル間を2時間30分ほどで結んでいた。前述した通り、イスタンブルの終着駅はヨーロッパサイドのシルケジ駅である。一方、ボスボラス側を隔てた郊外のアジアサイドにはハイダルパシャ駅があった。このハイダルパシャ駅は、ボスボラス側を隔てた郊外のアジアサイドのハイダルパシャ駅に相当する。ユラセックは既に「1914年当時の地味な風景」と、オリエント急行のシルケジ駅周辺は、午前2時の夜交として、ハイダルパシャ駅を10時ちょうどに「ワウラス急行」が通過していく。その行き先は、トルコの首都アンカラを結ぶ。シリアのアレッポ、イラクのパグダッドまで足を伸ばす長距離国際列車であった。

実は編者自身に、小説オリエント急行の殺人」の冒頭のタイトルは、「ワウラス急行の殺人」というのが、その意図は明らかだ。「シリアの冬の朝の五時、アレッポのシナットファームには、鉄道案内に「ワウラス急行」という列車が到着している列車が到着していた」。

このワウラス急行は、アレッポ駅からイスタンブルのハイダルパシャ駅まで走るが、私鉄路線である。キール・ボドリであり、イスタンブルで接続するオリエント急行の案内で、いよいよ殺人事件が起ころのである。

さて今回は、ハイダルパシャ駅は歴史的地標物として存在するが、オリエント急行と同様にワウラス急行は既になく、イスタンブル〜アンカラ間(Ankara)は、マヨット(T-スロセック・ワズル・トレン)に相当する。ユラセックは既に「ワズルは国民、トルコ語で言えば義勇兵の意だ。始発駅はアジアサイドのソストリュクエシェ駅。運賃はフリーマルカスで約トルコリラ。コロコロといふは東京も京都に相当する。日本の新幹線の約1割という安さだが、トルコ国鉄はユーレイルパス加盟国なので、窓口でユーレイルパスを提示すれば、YHTは割引料金なしで乗車できる。

イスタンブルを過ぎてもYHTは、営業時速200kmのハイスピードでトルコ西海岸の各地を駆け抜け、4時間弱でアンカラ駅に到着した。チャイキョーシー、スタックなどの車内販売もあり、快適な乗車体験だった。